

国語(古典)学習指導案(例)

学校名 沖縄県立N高等学校
対象学級 3年情報ビジネス科 Bクラス
男子9名 女子16名 計25名

1、単元名

郷土の古典文学(琉歌)を学ぶ

2、単元設定の理由

(1) 教材観

郷土の古典文学は、琉球の文化圏で生まれた作品をさす。しかし、それは「単に一地方の文学にとどまるものでなく、日本古典文学をより豊かにするすぐれた内容を持っている」と言われている。だが、大部分の生徒は、これまでに郷土の古典文学の学習をしたことがなく、郷土の古典文学に対する知識がほとんどない。本単元は、郷土の古典文学に親しませるとともに、古典文学に対する興味・関心を喚起させ、古典学習の発展を図る教材と考えている。また、前単元で和歌を学習しており、琉歌学習の導入にもなっている。

(2) 生徒観

3年情報ビジネス科(2クラス)の国語は、習熟度による3クラス形態である。本時の授業クラスは、Bクラスで、全体的に理解力がある。事前のアンケート調査(6月末実施)によると、国語が好きな生徒は多い(76%)が、古典に関しては半数以上(52%)が嫌いと答えている。その理由は、難しい(46%)、興味・関心がない(38%)である。

全員がコンピュータの基本的操作ができ、コンピュータを使った授業には、特に関心が高い(75%)ので、本時の授業方法は、学習目標実現に有効であると考ええる。

(3) 指導観

90%の生徒が自分達の郷土・沖縄が好きと答えているが、沖縄については、あまり知識がないのが実態である。本単元では、まずコンピュータ等を活用し、郷土の古典文学に親しませ、郷土の言語、文化等に興味・関心をもたせることが大切である。また、鑑賞する力を養うとともに、ものの見方、考え方を豊かにし、今後の古典学習の発展につなげ、主体的に学習する態度と生涯学習の基礎を養わせたいと考えている。

3、単元指導目標

- (1) 郷土について学習する意義を考えさせ、興味・関心を持たせる。
- (2) 郷土の古典文学及び郷土の言葉(琉球方言)の概要を理解させる。
- (3) 琉歌の概要を理解させ、鑑賞する力を養う。
- (4) 琉歌鑑賞を通して、郷土の文学や文化の素晴らしさを感じさせ、郷土を愛する心を育てる。

4、単元の指導計画(全6時間)

次	時	指導内容	学習内容	配当時間
一	1	沖縄古典文学概説 琉球方言概説	古謡・物語歌謡・短詩型歌謡・組踊について理解する 琉球方言の音韻・語彙・特徴・位置付けなどを学ぶ	2
	2	琉歌概説	琉歌とはどんなもの(種類・和歌との違い・修辞法・代表的歌人・分類・特徴など)か理解する	
二	1	琉歌鑑賞	テキスト「沖縄の文学」掲載の琉歌について学ぶ	3
	2	琉歌鑑賞	歌碑のある琉歌について学ぶ	
	3	琉歌鑑賞	恋歌・祝歌・土地ぼめの歌・哀傷歌など内容別に鑑賞する	
三	1	発表・まとめ	調べたことを互いに発表し合い、理解を深める 好きな琉歌を暗誦し、リズム・響き・心情を味わう	1

5、本時の学習指導(第2次の第1時)

(1) 本時の主題

琉歌を鑑賞しよう

(2) 本時の指導目標

テキスト『沖縄の文学』の「かぎやで風」「伊野波節」「好きな琉歌」の琉歌鑑賞をコンピュータを活用して行い、琉歌のリズム、読み方、内容を理解し、歌に詠まれた心情を味わわせ、個人でも琉歌鑑賞ができる力を身につけさせる。

(3) 本時の目標行動(G)

教材ソフトを活用して好きな琉歌を鑑賞することができる。

(4) 下位目標行動

好きな琉歌に詠まれている心情を教材ソフトを活用して、理解することができる。

好きな琉歌の特徴を教材ソフトを活用して、理解することができる。

好きな琉歌の内容を教材ソフトを活用して、理解することができる。

好きな琉歌を教材ソフトを活用して、リズムにのせて読むことができる。

伊野波節を教師の説明を聞きながら鑑賞することができる。

かぎやで風を教師の説明を聞きながら鑑賞することができる。

R 琉歌の表記が、沖縄方言の歴史的仮名遣いで記されていることがわかる。

R 沖縄方言の特徴がわかる。

R 琉歌の形態の主流が短歌形式(8・8・8・6の4句30音)であることがわかる。

R 琉歌の種類や形態がわかる。

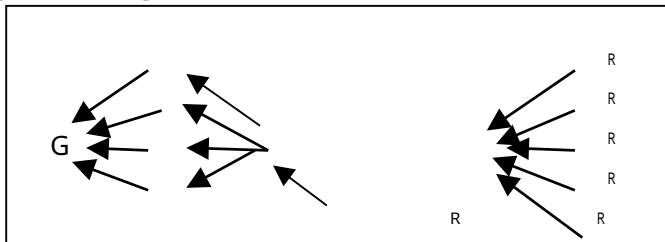
R 琉歌と和歌の違いについて説明できる。

教材ソフトを活用して、読みの練習や調べ学習ができる。

教材ソフトの扱い方がわかる。

R コンピュータの基本的操作ができる。

[形成関係図]



コースアウトライン



(5) 授業仮説

教材ソフト「沖縄の古典文学(琉歌編)」を活用した学習をすることにより、生徒は興味・関心を持って意欲的に取り組み、琉歌を鑑賞する力(読み・内容把握・心情理解など)を高めることができるであろう。

(6) 準備物

テキスト「沖縄の文学」・コンピュータ・教材ソフト「沖縄の古典文学(琉歌編)」・ワークシート

(7) 本時の展開

時間	授業の流れ	教師の活動	生徒の活動	目標行動	教材・教具
導入 8分		<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の学習内容を提示する。 「コンピュータを活用した琉歌鑑賞をします」 ・ 前時までの学習内容を確認する（レディネスの確認） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の学習内容の確認をする。 ・ 前時までの学習の復習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> R R R R R 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシート ・ 配布（本時の内容） ・ ワークシート ・ . （前時に記入済み）
展開 35分		<ul style="list-style-type: none"> ・ 「かぎやで風」「伊野波節」の琉歌を鑑賞しながらソフトの説明をする。 ・ 「かぎやで風」内容（祝いの歌）琉歌が音楽・踊りとともに発展してきたこと、現在の生活とも密接であることなどを理解させる。 ・ 「伊野波節」注意する語句（無蔵・石くぶり）内容（恋の歌）について理解させる。 ・ それでは、「各自で鑑賞しなさい」 ・ 机間巡視してソフトの使い方などを助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ソフトの使い方、操作方法、内容について知る。 ・ 琉歌の鑑賞の方法を知る。 ・ コンピュータを使って琉歌の読みの練習をし、暗誦できるようにする。 ・ 調べたことをワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> R 	<ul style="list-style-type: none"> ・ コンピュータ ・ 教材ソフト ワークシート ・ ワークシート
まとめ 7分		<ul style="list-style-type: none"> ・ 2、3人に琉歌の読みをさせる。 ・ 次時の授業の予告 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 琉歌を読み、読みができたなら、暗誦できるようにする。 ・ 次時の授業の確認 	<ul style="list-style-type: none"> G 	